

2020年度 武蔵野美術大学 造形構想学部 学部統一方式・一般方式の試験問題に関するアドバイス

国語：

学部統一入試では現代文長文2問、学科別入試では現代文長文2問と古文1問が出題される。現代文の出題内容は、文章読解、および慣用句、漢字についての知識や理解を問う問題である。古文は、平安時代後期頃から鎌倉時代にかけての主要な作品をもとに、基本的な古文の文法や慣用句の知識や理解を問う問題になっている。回答はすべてマークシートである。一般的な参考書に取り組み、大学入学共通テストの対策を行うことで、対応可能だと思われる。

英語：

長文（学部統一入試では1問、学科別入試では2問）と、会話文1問、文法の穴埋め問題、整序問題が出題される。単語は一般的な高等学校の教科書レベルである。長文と会話文は、ふさわしい語句の穴埋め、文の並び替え、文意の理解を問う問題、単語や熟語の理解を問う問題などからなる。回答はすべてマークシートである。一般的な参考書に取り組み、大学入学共通テストの対策を行うことで、対応可能だと思われる。

数学：

出題範囲は数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数B。問題Ⅰは、基礎的な設問の小問で、比較的解きやすい素直な問題群である。問題Ⅱ以降は標準的な総合問題である。数学に「王道なし」という格言を聞いたことがあるだろうか。王様向けの楽な方法はない、という意味だ。総合問題への対応は、時間をかけて取り組むことが大切だ。手を動かし、実際にやってみる、結果だけではなく、式変形や解答に至る論理展開を書き下す、別解で解いてみる、など地道な作業の継続が実力を高める。教科書などの説明を読み、易しい問題で基礎固めを行ったら、解説が詳しく書かれている標準問題や良問とされる問題を、数多く繰り返し解いていくことで、簡潔に書かれている「基本事項」の意味や使い方、数学への理解が深まることだろう。機械的に計算する場面もあると思うが、計算して出てきた結果を別の角度から検算してみたり、図に描いて考えてみることも理解を多面的にする。試験では誰にも解けないような難問は出題されない。段階を踏んで考えていけば、必ず解ける問題ばかりである。解きやすい問題、自分の得意な問題から解いていくとよいだろう。マークシートの場合は、記入ミス等で大幅減点になりかねない。十分注意を払って解答してほしい。

世界史・日本史：

世界史は、地域に偏りなく、古代から現代にいたるまでまんべんなく出題される。日本史も、古代から現代にいたるまでまんべんなく出題される。文中の語句や文についての説明文を選ぶ問題や、人名や地名などの用語の知識を問う問題、出来事を年代順に並び替える問題などからなる。回答はすべてマークシート。一般的な参考書に取り組み、大学入学共通テストの対策を行うことで、対応可能だと思われる。

物理・化学：

物理は、運動、波、電気と磁気、原子など各領域がまんべんなく出題される。化学も同様に、物質の構成、化学結合、物質の変化などについて各領域がまんべんなく出題される。問題は、穴埋めや組み合わせを問う問題、計算を要する問題などさまざまだが、回答はすべてマークシートである。一般的な参考書に取り組み、大学入学共通テストの対策を行うことで、対応可能だと思われる。